

2022年10月12日

留学報告書

南山大学長

ロバート・キサラ殿

外国語学部 英米学科

教授 山辺 省太

2021年11月21日から2022年9月20日までロンドンに滞在し、受け入れ先の Royal Holloway, University of London にて「ウィリアム・フォークナー文学における宗教と宿命意識に関する研究」に従事した。コロナ禍で大学の授業がオンライン中心だったこともあり、学内での交流の機会は少なかったが、それでも客員研究員として私を受け入れて下さったティム・アームストロング教授とは研究室や大学構内のカフェなどで、研究についての意見交換をすることができた。とても感じの良い教授で、ロンドンは初めての私を市内の名所に案内して下さったこともある。

留学中はコロナ禍のため学会も余り開催されなかったが、それでもイギリスのフォークナー協会主催のオンライン学会に一度出席した。他には、日本スタインベック協会からの依頼を受けて、9月4日に「スタインベックとアレント——『怒りの葡萄』と『エデンの東』における革命の可能性」というタイトルで講演（オンライン）を行った。基本的には孤独な研究活動であったが、それでもフォークナーに関する英語の研究論文を2編書き上げ、現在はフォークナーと宿命意識をテーマにした別の論文に取り掛かっている。それ以外の研究成果としては、スタインベック協会の講演原稿を近い内に論文として出版する予定である。ロンドンで執筆したフォークナー文学の論文はアームストロング教授にも読んでいただき、多くの有益なコメントをいただいた。

今回の留学で得た学術の交流関係を引き続き維持したいと考えている。と同時に、これまでコロナウイルスの影響で海外との行き来が制限されていたが、それも今後は大幅に緩和されることが予想されるため、今回の留学ではできなかった海外での研究発表を次年度以降は積極的に行っていきたい。